

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念はあるものの独自性のあるものではない  どういったものが独自性のある理念なのかかわからず書籍等を見ても、どれも似たようなものばかりで困惑している。</p>	○	
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>上記に示したとおりの理念のために各職員はぼんやりとしたビジョンの中で行っているため曖昧である。</p>	○	
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>同上</p>	○	
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>核家族化や共働き等で生活リズム自体が近所と少しずれているように感じ、回覧板等でしか会うことも無く、見かけたときの挨拶程度である。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内のお祭りや、老人会等には参加し、募金などで地域活動に参加している。今年はお祭りの協賛に協力する予定になっている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>入居者の支援に努める様過しており、地域の高齢者にまで配慮を配ることが出来ていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義は理解しているが去年から今年にかけては改善には取り組めていない。小樽市の実地指導等も、重複して指摘されていることもあるがすべての改善には至っていない</p>	<p>○ 今年の評価結果から次の評価に向けて改善項目に取り組んで生きたい。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は未だ設置しておらず6月中にも第1回目を開催する予定でいる。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見制度は現在検討中である。入居者の財産の管理当については、本人の希望があれば行政書士に代理を頼み証券などの処理を行っている。</p>	<p>○ 親族に居所を知られたくない入居者もいるので慎重に決定しようと思っている。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待について学ぶ機会は未だもたれていない。</p>	<p>○ まずは書籍等で各自勉強してもらい、当事業所に当てはめた対処を考えていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は出来るだけ説明しているつもりでいるが、疑問等があるか考えてもらうため、一度契約書を家に持ち帰ってもらい次の回に契約するようにしている。</p>	<p>○ 家族の方々も高齢であることが多いため、字を大きくした見やすい文書や書面の作成を考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置等行っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に報告したり、時には電話での報告をしているものの、報告内容を記録している文書等無いため必要性を感じている。	○	遠方に暮らす家族の方には写真等を付けて報告したいと考えている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置・苦情窓口の電話番号などの公開など		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の申し送りの際に話し合いの機会がある。	○	全体会議の機会を持ちたいと思っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や行事の際には職員を確保している。急な予定では対応しきれずに後日に予定が変更になる場合がある。又、土日はどうしても手薄になりがち。	○	土日の手薄な勤務調整に力を入れて行きたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職の場合は早い時期にわかっていても退職日間近になってから伝えるようにしている。(気分の変動で体調を崩さないようにするため)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>書籍の貸し出しや回し読みなどで勉強の役に立てるよう努めているが、外部の研修には参加できていない。</p>	<p>○ 外部の研修に参加できるよう勤務調整して参加していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者との交流はほとんどない。</p>	<p>○ 研修などに参加しネットワーク作りに取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>何にストレスを感じるか各々違うのでケースバイケースだと思っているが、休み希望などはなるべく叶えるようにしており、職員の家庭での用事がスムーズに行えるように調整している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>現管理者の勤務時間は過酷だったため向上心を持てる働きではなかったものの、他の職員は、得意分野の把握や希望勤務調整などで向上心を持てるように努めているつもりです</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>各職員が少しずつ聞きだし、朝の申し送り等で発表し、人格の把握や適切なサービスについて話し合ったりしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>現在までの経過から入居してから聞くことが多かった。 (主にケアワーカーが家族に代わり話すことが多かったため)</p>	<p>○ 直接家族から聞く機会を設けたいと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	添書等と合わせて家族との話し合いでサービスを決定・努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	初期のサービスは身体介護中心に馴染んで体調を整えてから本格的なサービスを家族と考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	同じテレビを見たり、同じ作業裁縫や料理などを通し、すごす時間がある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と疎遠に暮らしている方はなかなか関係を築くことが難しく、自分たちの生活を最優先に暮らしているため共有の認識に繋がりがづらい。	○	連絡の際に写真や、電話口で直接家族と会話するなどの機会を増やしていきたい
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	少し距離を置き、第三者をとおして触れ合うことで自然に入居者と家族お互いが労わりや思いやりの気持ちがわく場合もあるが、お盆や正月などは特にこちらから連絡を取り、一緒に過ごす時間等を考えてほしいとの旨を伝えたりしている。	○	
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	認知症の度合いや体調によって馴染みの環境や関係を知ることが難しい場合も多く家族も離れて暮らしていた場合更に困難で途切れがちである。しかし同じような時代・地域で暮らしていた入居者が多いため(テミヤ・高島付近)共通の過去の出来事などの会話は出来ているようで、浜言葉での会話も理解できるようです。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	上記のような会話が成り立つことから利用者同士の関わり合いもあるようです。しかし介護度が進むにつれ、独自の世界に入りがちで関わり合いが難しい場合も有り、ヘルパーが間に入りコミュニケーションしやすいよう努めています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去した後も山菜を届けてくれたり、近況報告などを聞かせてくれる家族もいる一方でほとんどの家族が関係を断ち切って新しい環境の中暮らしているほうが多い。	○	これから先もかかわりを持ってくれる方々との関係は大切にしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共同生活ということから就寝時間や食事の時間などはある程度決まっている。又服薬や環境衛生などの観点からもある程度指定させてもらう事柄もあるものの家具の配置や園芸等の趣味など意向に合わせて行っているものもある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の前後で各職員が会話の中から聞きだし申し送りの際に練り上げて行くようにしてる。	○	センター方式の導入を考えており、入居前後だけではなく経過的に把握できるようにして行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の記録書に毎日、記入やチェック項目をして過し方や変化を把握できるように努めており、ケアプラン等の更新の際に改めて把握するようにしている。又医療機関などで定期的に認知症のテストや骨等のレントゲン・脳のCT等でも状態の変化が発見できるよう働きかけている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	話し合いの中作成しているがケアマネ中心に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて見直し、ケアプランの作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録表に記入し情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性を活かした支援は出来ていない。	○	どんな支援が可能なの考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の歌のボランティアの方達に来てもらったり、お琴や尺八の演奏ボランティアの方に協力等していただき、時折過している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の施設等に移る場合や入居する場合などは他の地域のケアマネとも話し合う機会があるが、入居している間は、他のサービス利用の支援をしていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	あまり関わりを持ったことがない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人又は家族の希望で掛かかかりつけ医を選択している。希望がない場合協力医療機関へ受診・往診している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	相談したり、治療を受けられるよう支援している		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員はいないが、ケアマネ・管理者と看護師の資格があるため、異常や変化のある場合には、往診や受診をして対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院してしまうと家族ではないものに個人情報や病院側は教えてくれないことが多いため、家族が間に入り。情報交換する形が多い。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方については話し合った方もいれば、家族と疎遠の方は話し合えずにいる。その時々によって家族や本人の希望が違うため、何か病気が怪我などで受診するたびに家族に確認する。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在終末期の支援はしていないが、本人や家族の望むものが医療行為の場合、病院と話しあい、入院等検討してもらっている。	○	具体的に出来ること出来ないことについて職員と話し合う機会を持ち。準備しておきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	添書などをつけ、電話などでも対応についての相談に乗っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	普段から気をつけていても不意に言葉掛けをしてしまい機嫌を損ねることがある。	○	本人の性格を知ったつもりでも慎重に対応、職員全体で統一した態度で接したい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	買い物など自分で買ってもらう又は、何がほしいのか聞いたり、受診の際の洋服選び、見たいテレビ番組など日常的に本人にどうしたいか聞いて支援することが多い。時折納得できないこともあるようだが、時間を掛けて説得するようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の確保や勤務時間から希望に沿わせることが難しいこともある		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	望む店に行つての理容・美容は実施していない。体力的な問題もあり長時間にわたり(パーマ等)座っていられなかったり、トイレの問題もあり、現在のところ訪問理容で可能な範囲にしている。化粧等は個々に購入するなど好みに合わせて支援している。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食箸やコップを並べたり、食器の片付けなど一緒にやっている。芋の皮むきや餃子作りなどを一緒にやっている。	○	一緒に調理する機会を増やしたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	10時のお茶タイムは各自好みの飲料を飲んでもらっている。空気清浄機をつけ、指定して場所であればタバコも可能である。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間ごとにトイレ誘導を促すようつとめており、夜間と昼間のオムツの種類を変えることで不快感や漏れを解消するよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員の確保から指定せざる得ない。順番の変更や入浴剤などの使用で楽しめるよう努めている。	○	特に夏はせめて回数を増やして入浴する機会を確保したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	好みの寝具や照明で支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除の担当のローテーションを組んで行ったり、ボタン付け担当・ウサギの世話担当・園芸担当など独自の担当分野があり、得意分野と役割を活かした生活をしている。	○	利用者全員に活かせる役割りがある訳ではないので新たに力を活かした役割を見つけ支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	定期的に金額の設定見直しをしながら、金銭の所持をしてもらい、自分の財布からお菓子など小額のものを購入したり・訪問理容等の清算をし行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	身体状況にもよるが、天気の良い日はなるべく外の風に当たるよう声掛け等の支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と共に外出する機会はお盆や正月にはこちら電話などで働きかけている。2ヶ月に1回程度入居者さんと外食に出かけ食べたいものを食べてもらう・自分で着たい衣類を購入するなどの支援をしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	主に電話で本人と話してもらうようにしているが、はがき・手紙などは職員が代筆して一緒に文書を組み立てて書くこともある		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	かぞくの他、職員の家族など訪問してまったりとして帰って行くことがある。また以前働いていた職員なども訪問したりする。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていないが、正しい理解が職員全体にあるかは不明	○	最初は書籍などの貸し出しから始めたい。疑問が出たことは事業所内で話し合っ行ってきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開設以来鍵を掛けていない。(全員での外出以外)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライベートな空間を大切にすることもいるので、勝手に居室には入らずに声を掛けるもしくは一緒に居室に入るなどして様子の把握や所在の確認をしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要なものに関しては事務室などに預かったり、個々に危険なものが違うので中にははさみもそばに置かないようにしている方もいれば、居室で裁縫を趣味にしている方もいるのではさみや針が有る方もいるが置いてある場所や、大体の数量を職員全体で把握している。	○	今以上に把握に努めたい
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実施していない	○	取り組みについて話し合っていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	次回の訓練に応急手当の方法を教わる予定でいる。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の際に非難の練習はしたが地域の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	運営推進会議を通してどのような協力が得られるのか考えたい
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族と疎遠になりがちの方は年齢と共に起こりえるリスクの変化に理解を示しづらい。	○	わかり易く理解してもらえるよう何度でも聞き返せるような環境作りを考えたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	少しでも早く気づけるよう受診往診の際の検査結果を参考に考えられる変化について初めから申し送りなどで呼び掛けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	日々新しい薬が出るため理解には各職員メモなどを取り勉強している。	○	新しいピルブックの購入を検討している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	足上げ体操を日課にしている。便秘しやすい方は記録に記載し下剤を服用する場合にはいつもより多目の水分補給を促す。10時お茶タイムの際にヤクルトなどの乳酸菌飲料を飲み、自然な排便の工夫を利用者と話し合っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後職員による清掃の他、介助を拒否する方もいるので声掛けし、定期的に訪問歯科にお願いしその都度治療・指導を受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日のメニューは入居者全員に同じものを食べてもらっているが、量の増減など、医師の指示等あった場合調節・記録している。刻みなどの加工は状態に合わせて行っている。水分は毎食後と10時・15時にとってもらい、調節の必要性ががる場合、記録に記入している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、流行の季節にあわせ呼び掛け、見るようにしているとともに受診時や通勤経路で職員が感染しないよう、うがいと手洗い・作業の際のゴム手袋の着用等と呼び掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	チェック表を作成し調理用具等の管理をしている。また購入した食材に日にちを記載し早めに使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	消防などの観点から出入りしやすいように余計なものを置かないようにしている。又靴には名札カードなどをつけ本人がわかりやすい様になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	西日の入る居間などは夕方の時間すだれを下げたり、希望があれば居室にもカーテン等を下げて対応している。音については、21時以降は他の入居者が見ていても、居間のテレビのボリュームを下げ静かで眠りやすいよう空間になるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓機のほかに畳ベンチ・2階ベンチなどで好きな時間を過ごしている。しかし共同空間では一人になれる空間はないのでその場合居室に行き行って過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具の持込や自身で作った装飾品等を置くなど個性が出た部屋になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開けて換気や、タオルを下げて湿度の調節をしたり、喫煙者がいるため空気清浄機を各階に取り付けている。	○	喫煙は分離を考えている
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段が多く安全に気を使う一方、生活しながらリハビリになり身体機能の維持に役立っている。導線には不安定な物(割れて怪我をしそうなもの等)を置かないなどの工夫をしている。	○	エレベーターの必要性は感じているがしばらくは階段などの見守りや付き添いなどで支援して行きたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各自の箸やカップを席に並べてもらったり、みんなの洗濯物を仕分けして畳んだりわかる範囲で協力して生活している。失敗や混乱の際には職員が間に入り再度取り組むよう自信をなくさないよう支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	小さいが菜園スペースがあり野菜などを育てている。また花なども植えている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	③
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	③
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>④</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)